

酒 井 哲 哉 著

図説 常用外科手術

東京都立広尾病院長 石 川 幸 雄

この本はその書名の通り、常用の外科手術について、豊富な図をもって、わかりやすく説かれてある。以前に原勇三先生著の図解手術書があったが、それでは専ら写真が用いられていたのに対し、この本ではすべて線画が用いられているのが特徴で、私はむしろ線画の方が要領よく理解しやすいように思う。

本書では従来の手術書と異り、臓器別にとらわれることなく、手術を難易の段階にしたがって二分し、入門編と中級編とに分けて述べてあって、特殊な高級編は他の大手術書に譲るという形をとっているが、中小

病院で実地に取扱う手術は全部取り上げられている。

記述は平明で、著者自らの多年の実地経験と、教室内外の諸先輩から与えられた口伝とを織りまぜて、実に細かい注意点まで言及し、手術をいかに巧みに、しかも安全かつ確実に行なうかに深い配慮が見られる。著者は先年ドイツ国に留学して、つぶさに彼の国の外科学の現状を身をもって体験して帰って来たのであるが、その時の収穫も所々に散見される。決して大見得を切った本とは言えないが、じっくり落着いて要所要所をしめつけている感じのす

るのは、著者の性格に由来するものと思われる。

本書を出版するに先立って、恩師大槻名誉教授に原稿をご覧願ったところ、非常に几帳面な先生のこととて、全文に亘って貴重な御助言と御指導を賜わり、御自ら加筆までして下さった由で、したがって内容は一段とかがやきを増したのではないかと感ぜられる。

なお各手術毎に必要な器械も表示されてあるのも、他の手術書には少ないことであって、行届いた心やりと思う。

本書は独り入門初心者のみならず、多忙な実地医家にとっても、安心して頼りになる役立つ本であろう。

B 5 判 頁222 図398 ￥3,400
〒90